

# ゾウの歩き方調査

岡山理科大  
石垣教授 恐竜の行動を研究



南区築港栄町で開催中の木下大サーカス岡山公演(山陽新聞社主催)の会場を訪れ、出演するアジアゾウの歩き方を調査した。

石垣教授は以前、米国やアフリカで、四足歩行の大型恐竜が曲がる際の足跡化石を調査。後ろ足が前足より内側を通っていたことを突き止め「今の動物

モンゴルで恐竜化石の発掘調査に取り組んでいる岡山理科大の石垣教授(古生物学)は3日、恐竜の行動を研究するため、岡山市



ゾウの歩き方を調査する石垣教授(手前左)ら

はどのような足跡になるか調べたい」と木下サーカスに依頼した。この日は学生も含め5人が訪問。公演後にゾウの歩く様子を動画撮影したほか、足の大きさを測った。

ゾウの足跡は、後ろ

足が前足より外側を通っており、石垣教授は「頭の大きいゾウは前方に重心がかかるため、負担の軽い後ろ足で方向転換するのだろう。重心の位置で足跡の付き方は変わる」と分析。今後、ロボット工学による解析も加え、恐竜の歩行に関する論文の発表を目指すとしている。

(太田孝一)